

伝統を守り継ぎ、
明日を見つめる。

技 WAZA Bito

「ものづくりのまち」と呼ばれるすみだでは、多くの職人が働いています。熟練されたふたりの職人のもとを訪ねました。

お神輿からアクセサリーまで
かざり金具の魅力は無敵！



1 作品の元になる金板 2 かざり金具の技を駆使して作られたブローチ。細かい模様は塩澤さんならではの 3 糸鋸を使って真鍮板(しんちゅういた)に飾りをつける 4 塩澤さんが所有する無数の鑿。これが美しい飾りを生み出す

かざり金具 塩澤政子さん

かざり金具とは神輿や山車などに施される金属の飾りのこと。装飾と補強を兼ねそなえた、日本独特の伝統工芸です。

「お神輿の場合、まず宮大工さんが木地をつくり、それに合わせて金具を施します。お神輿1つでパーツは約3000あり、全部手作業だから、手間も時間もかかります。徹夜で仕上げることもあるんですよ」とおっしゃるのは、「かざり工房しおざわ」の塩澤政子さん。高校卒業後、両親の仕事を手伝う形で現在の仕事に就



昭和19年生まれ。高校卒業後、家業を継ぐ。すみだマイスター。ブローチ「花まとい」で第6回東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞都知事賞受賞。

き、今では墨田区伝統工芸保存会唯一の女性職人として活躍しています。「細工をするときは、真鍮板に型を墨で描いて、鑿を打ち込み、模様を彫りこみます。鑿を打つのに力はいるけど、コツがあり、力を入れれば模様を打ち込めるというものではないのです。私は、父の作業をずっとそばで見ながら、その技を覚えました。女性らしい感性で、魅力的なアクセサリーも作っている塩澤さん。今後はワークショップを展開し、新たな魅力発信も行う予定です。



塩澤さんのかざり金具が施された神輿は第一ホテル両国に飾られ、宿泊客の目を喜ばせた



工房 牡丹 MAP P77

墨田区石原1-38-7 11:00~17:00
不定休 ☎03-3621-1652
<https://tagane.jp/>

繊細な職人の技に出会える工房。塩澤さんの作品のほか、妹・井上孝子さんの作品も並ぶ。

べっ甲 唯一無二の輝きを放つ べっ甲製品をもっと身近に 磯貝英之さん



昭和47年生まれ。大学卒業後、サラリーマンを経て、平成11年、父・磯貝一氏に師事し、べっ甲職人に。平成20年チャレンジ大賞優秀賞受賞。

奈良時代から伝わる装飾品、べっ甲は透き通るような鉛色と優しい手触りが特徴的。磯貝英之さんは昭和14年から続く「磯貝べっ甲専門店」の三代目。サラリーマンを経験したのち、伝統の技を残そうと一念発起し、職人の道を目指しました。「べっ甲の原材料は、カリブ海などに生息するタイマイガメの甲羅で、大変貴重なものです。甲羅の背の部分から中央に5枚、両側面に4枚の素材が取れ、ほかには、腹の黄色い部分なども材料になります。一番難

しいのは、デザインに合わせて行う「布あわせ」という接着作業。べっ甲は熱を加え、圧力をかけると膠が溶けだし、接着剤の役割を果たすのですが、温度調整と力加減には長年の勤が必要。私もうまくできるまで10年かかりました」べっ甲は天然素材なので肌になじみやすく、アレルギーの人にも優しい素材。重量も軽いため、メガネのフレームや腕時計のバンドなど、さまざまなものが作られ、その独特の風合いは今も多くの人に愛されています。



べっ甲の髪飾り。珍しいブルーの漆が目を引く蒔絵には、光の角度によって真珠色の光を放つ螺鈿が埋め込まれている

べっ甲で作ったブローチ。琥珀色と呼ばれる黄色を生かすのがデザインのポイント



磯貝べっ甲専門店 MAP P77

墨田区横網2-5-5 10:00~18:00
土・日曜・祝日 ☎03-3625-5875

櫛やかんざしのほか、現代的なデザインの装飾品も多数揃うので、お土産選びにもおすすめ。

1 成形された作品にやすりをかけて形を整える作業 2 耳かき、かんざし、ストラップなど、さまざまな商品が作られている 3 財布に入れておく金運アップにつながるといわれ人気の「錢びと」 4 べっ甲の素材となるタイマイガメの甲羅。磨くことで、くすんだ色が驚くほど輝きを放つ

